

東上野六丁目南町会

事業名 六南こどもまつり

事業概要

- 子育て世代の町会役員の発案により、初の試みとして、まつりの運営に参加する子供を募集。15名の小学生が当日の運営に携わり、社会経験の場となった。
- 当日は、多くの親子連れが来場。幅広い世代に町会活動への理解が広まった。

実施期間 令和6年5月23日～8月19日
参加人数 約250名
事業総額 約25万4,400円
(地域の底力発展事業助成金 20万円)

主な経費(助成対象)

- 打合せ経費 ペットボトルお茶
- 物品購入費 食材、文具、景品
- 印刷経費 ポスター、イベント参加チケット
- 役務費 イベント保険料、道路使用料

役割分担

《企画・広報(約15名)》町会役員と町会青年会、子供(小学生3名)が企画・チラシ制作を担当

《設営・運営(約40名)》町会役員、町会会員有志と子供(小学生15名)が会場設営、イベント運営等を担当

事業の開始から終了までの主な流れ

令和6年
5月23日 初回打合せ。前年度の区役所、消防署、警察署、保健所への申請関連内容を確認
6月6日 打合せ。出し物、役割分担決め、掲示板の掲示内容、回覧板の配布内容等を検討
6月20日 回覧板、掲示板で事業を告知
6月26日 役員打合せ。出し物、役割分担決め、ポスター最終確認
7月8日 役員打合せ。仕入れ内容確認、役割分担決め、ポスター掲示開始
7月11日 打合せ。仕入れ内容確認、役割分担決定
7月28日 「六南こどもまつり」開催
8月19日 反省会



子供たちにお手伝い募集を呼びかけた「六南こどもまつり」のチラシ

「六南こどもまつり」を開催 子供たちが企画から運営まで参加

令和6年度の「六南こどもまつり」は、子供たちが企画・広報から当日の運営に至るまで主体的に参加する方式とし、7月28日に開催した。

企画の段階では、小学生3名がゲーム選びに加わり、輪投げやペットボトルボーリングなどの案を出してコイン落としに決定。水槽に落とすコインの種類も、子供たちが実験の上、落としやすさなどから1円玉に決めた。

午前10時には祭りの運営に応募した子供たち15名が集まり、かき氷やフランクフルト、焼きそば、ポップコーンなど模擬店の設営を行った。

続いて、12時30分から来場者の受け入れ準備を開始。子供たちを含めた運営スタッフが自己紹介をして役割分担を確認した。

午後1時には、予定通り祭りがスタート。模擬店では子供たちが「いらっしゃいませ！」と来場者に呼びかけ、かき氷にシロップをかけたり、焼きそばなどを容器に入れて手渡したり、金魚を袋に入れるなどして元気いっぱいに運営に参加。町会の外からも多くの親子連れが訪れ、賑わいを見せた。



当日の会場風景



「コイン落とし」ゲームのブースを運営する子供たち

事業による 成果・効果 子供たちが楽しみながら社会を学ぶ機会に

副会長で青年会長も兼務する川上さんは、「子供たちは、お店屋さんごっこの延長線で、喜んで企画・運営に参加してくれました。祭りを運営する側に回ることで、子供の時から地域活動に親しんでほしい。将来、地域の活性化に貢献する人が現れると思います」と笑顔を見せる。参加した子供たちからは、「来年もやりたい」という声が上がっている。

地域の活性化のみならず、子供たちにとっては、学校では学ぶことができない地域活動や、地域に住む方々との交流などを通じて、貴重な社会体験の場となった。

事業を振り返って

声

子供たちの見守りにもつながりたい

「公園で1人で遊んでいる子供がいるとき、知っている子なら声を掛けられます。地域で顔の見える関係が広がることで、子供の見守りにもつながると思います」と今回の発案者である川上副会長。「町会会館となっている『六南会館』を子供の居場所に活用したい」と語り、地域ぐるみで子供たちを見守ると意気込む。

来年度に向けて、「チラシに印刷したQRコードからの申込が少なかったので、来年はお手伝いの内容を分かりやすく記載するなどして、応募が来るようにしたい。より多くの子供たちに参加してもらい、顔の見える関係を広げたい」と子供が主役の企画に力が入る。



副会長の川上さんも中学生と小学生の子供のいる子育て世代